

愛媛県における 保育者の人権意識 調査結果

愛媛県内の保育者700人を超えるアンケート調査から見えた人権意識とは？

1 保育者が大切にしている専門性

個性の尊重-愛媛の保育者は、一般の方と比較して「子どもの個性の尊重」を極めて重要視

- 高い人権意識-保育場面での不適切な関わりに対して、9割以上の先生が違和感。



保育者のみなさんが、子どもを一人の「権利の主体」として尊重しようと実践されている証。

2 「よかれと思って…」の死角に気づく

一方で、以下のような場面では「違和感」が相対的に低い傾向

- 「いま忙しいから後にして」
(集団を回すための優先順位)
- 「失敗を防ぐために強制的にトイレへ促す」
(先回りしたケア)

これらは責任感や配慮から生じる行動。

しかし、忙しい時や失敗を防ごうとする時ほど、子どもの人権尊重が後回しになっている可能性。



3 無意識の思い込み

多くの先生が「家事・育児は女性がすべき」といった性別役割規範を否定しつつも、現実にはそのような言葉や態度を多く経験

- 社会からの外圧 「女性ならこうあるべき」という期待や職場でのバイアス
- 同性が多い職場だからこそ「言わなくても分かるはず」という無言の圧力



日々の小さな違和感を職場の仲間と共有していくことが、変化の第一歩に。



Information

松山東雲女子大学では、子どもたちの人権を尊重した次世代の保育に向けて研究と教育を進めています。

● 「保育におけるダイバーシティとインクルージョン」 開講予定

内容：最新の情報を紹介しつつ、学生たちとこれからの保育について探究していく科目です。学外（遠隔）でも受講できるように調整中です。

(2027年度開講予定)

● 図書館にはたくさんの絵本があります

認定絵本士養成講座を開講している本学では、「ふつう」を捉え直す絵本や、子どもたちとともに人権について考えられる絵本を多数選定して配架しています。学外の方も利用することができます。



調査概要

調査期間：2025年12月1日～2026年1月8日
調査対象：愛媛県内の園に勤務する保育者 回収数：769

付記：本調査研究は令和7年度公益財団法人えひめ女性財団調査研究助成事業の助成を受けて実施されたものです。

研究実施者：松山東雲女子大学 人文科学部 心理子ども学科 子ども専攻 山口真美、影浦紀子、鏡原崇史